

「病院」の教科書 知っておきたい組織と機能

今中雄一 編

＜書評者＞ 岩崎 榮 (NPO 法人卒後臨床研修評価機構専務理事/
元日医大主任教授・医療管理学)

医療人（病院人）すべてを対象とする『「病院」の教科書—知っておきたい組織と機能』という画期的な本が出版された。本書の「はじめに」にあるように、病院の構造と機能を上手に組み合わせて書かれた本としては知る限り初めてであろう。病院の構造はわかりにくく、そこで働いている病院人にも理解しがたいところである。“機能”となればなおさらである。病院の1日がどのように動いているかは、病院長や幹部職員でも見えないことがある。本書はそうした病院の複雑さを踏まえ、読者がその全体像を把握できるように構成されている。

これまでも、医学書院からはこの領域の書籍が発刊されてきた。時代は古いが、今日においてさえも教科書の域を超えたバイブル的存在といえる『病院管理学体系』（橋本寛敏・吉田幸雄監修、全6巻）や、最近では、ごく平易に書かれた『病院早わかり読本』（飯田修平編著）が出されている。しかし善きにつけ悪きにつけ、病院が今日ほど一般国民から期待され注目されている時代はないであろう。だからこそ、医療職をはじめ病院にかかわるすべての人は、病院のなんたるかを知る必要がある。本書はその求めに応え得る内

容を備えた書といえる。

先にも触れたが、本書の編者である今中雄一氏は「はじめに」において、「病院の運営・経営の向上を目指し（自らの貢献度アップを目指し）、病院の組織と機能を体系的に理解するための本」であると述べている。全編を通じて、医療の質と経営の質との関係性を念頭に置きながら執筆されている点に本書の特徴があるといってもよい。また、序論「医療経営の礎：将来を見据えて」の結びで、今後の病院の経営に望まれる要素を提言のかたちで挙げている。すなわち、「質と安全を守り継続的に改善する組織文化（とチーム）とシステムを、リーダーが意識して築こう」「地域全体を見据え、患者のケアの全プロセスを見据え、医療（と介護）を設計・計画しよう」「臨床家も事務管理職も主体的に病院データを活用し、先んじて透明性を確保し説明責任を強化しよう」「人材を育てる環境をつくろう。そして個々人皆が主体的に学習し成長し、変革する力を養おう」の4つである。これら4つの提言は病院経営のノウハウをすべて言い尽くしている。そしてこれらの提言については、本書の中で具体的に順序立てて周到に記述されている。先の「序論」からはじまり、

第I章「病院経営の基本と制度」では主として病院経営に必要な診療報酬やDPC、医療の原価計算などについて事例を示しながら解説されている。この章では、医療安全管理、危機管理、感染制御が取り上げられ、さらに質改善のシステムとしてPDCAサイクルを図で示しながらわかりやすく説明している。第II章は本書の副題ともなっている「病院の組織と機能」で、病院の全体的構造を写真とともに提示し、しかも機能と組み合わせさせて書かれ、診療のプロセスが手に取るように理解できるようになっている。第三章では「介護システムとの連携」を取り上げ、今や医療と分離しがたくなった介護との連携を、ここでは「病院関連施設」と題して訪問看護ステーションから特別養護老人ホームまで触れている。在宅医療の高齢者を支援するサービスと要介護状態にある高齢者を対象とする施設とに分けて医療とのかかわりがわかるようになっている。

本書は医療人（病院人）個々人だけでなく、各職場において誰もが手に取り読めるような場所に置いておく必要がある。医療系・看護系・福祉系の大学をはじめ学校関係者には、まさに本書の題名通り“教科書になり得る本”として推薦する次第である。

●B5 頁248 2010年
定価 3,990円
(本体 3,800円＋税5%)
[ISBN978-4-260-00595-1]
医学書院 刊